

〔華實年浪草正月上〕年男豆ナ其家々人チ撰テ定之先舊年煤拂ノ竹ヲ以テ拂ハシメ除夜追儼ノ  
論ニヤ、嘉例勿

〔今川大草紙〕躰式法の事

一御年男勤○する事元三にかにも早天に出しをして先御やうじニツ奉りてよし長さは  
 六寸たるべし是を一づ、かなげに置いてまんずべき也其後まやうじなどを明て御座敷を  
 きよめべき也すみをも置べし御てうづも御年男の役也若水をいつもの御手水のかんにわ  
 かして參らせべき也はんぞうたらいの中にゆづり葉を置べしまだを下にゆづりはを上  
 扱あをめなる石のちひさきを三ツ金輪に置べし十五日迄は何事も御いはひ事は御年男の  
 役也節分の夜の鬼の大豆をも御年男きんずる也

〔梅窓筆記下〕年男ト云コト南都春日社記應永卅五年戊申正月日社頭之詣日記若宮常住神一應

永卅五年正月一日曉御奉行祐富殿年男下番神殿守宗時ノ代官宗繁一面一瓶持參ス時ニ神主  
 殿ヨリ鏡一面ツミクダモノニテ御酒三獻祝了但下部ニハ小餅一前給ナリトアリ

〔續百一錄〕延享三年正月六日七日八日之内略○中一年男江鳥目貳百文扇子三本入

〔柳菴隨筆此〕年男 役人系圖 御年男酒井雅樂頭忠清此前 貞享元年十二月九日御年男御祝

御規式役大久保加賀守忠朝 元祿十一年十二月五日御年男阿部豊後守正武 寶永元年十二

月九日御年男土屋相摸守政直 寶永六年十一月十八日御年男小笠原佐渡守長重 寶永七年

十二月四日土屋相摸守政直 享保三年十二月朔日井上河内守正岑 同七年十二月九日戸田

山城守忠真 同十四年十二月朔日水野和泉守忠之 同十五年十二月朔日松平左近將監乘邑

延享二年閏十二月朔日酒井雅樂頭忠知 寛延二年十二月朔日堀田相摸守正亮 寶曆十二

年十一月十一日酒井左衛門尉忠寄 明和元年十二月十五日松平右近將監武元 安永八年十